ふじさわ･命！････ゆめクラブ藤沢･東部地区老連･会長会主催による境界点探査がスタート

201910.07

薄曇りながら時折日が差し暑くもないマズマズの天気。10月7日正午、JR藤沢駅の改札前には東部地区老連会長会からの篭嶋、谷口、三堀、池田の各会長に取材担当の權頭、三富士クラブから参加の川戸さんを含めた6名の勇士が集合。

境界点(線)	境界都市	場所の説明
1	茅ヶ崎	汐見台小近くの海中から境界線が立ち上げる。
2	茅ヶ崎、寒川	小出川沿いの湘風園付近
3	寒川、海老名	新幹線際、富士ｾﾞﾛｯｸｽと平塚ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ脇の路上
4	海老名、綾瀬	目久尻川に架かる用田橋下
5	綾瀬、大和	小田急藤沢ｺﾞﾙﾌ場内
6	大和、横浜	境川水中
7	横浜、鎌倉	大鋸1190-3付近、境界杭有り
8	ほてる汐彩付近を境界線が通り海中に没す	

この記事は、篭嶋、三堀両会長の綿密な事前調査により判明した市内8か所の境界点(隣接する茅ヶ崎市、横浜市、寒川町等との境界線が交わる所。）を確認し、我が郷土･藤沢市の領土保全と不法侵略防衛の最前線に立つ「ふじさわ･命！」の6名の行動記録である。

「無理せず、楽しくやりましょう！」との谷口会長の挨拶で今日の探査がスタート。12時18分発の東海道下り電車に乗り込み隣の辻堂へ。駅南口からの江ノ電バスの運転手さんは、新人らしく初々しいアナウンス。丁寧な運転で15分、辻堂海浜公園前で下車。

ここからは篭嶋隊長の後について国道134号線を西へ。

浄化センターのすぐ先が藤沢市と茅ヶ崎市の境界らしい。道路標識に藤沢市とある路面を探すが、それらしき境界鋲や杭は見当たらない。センターラインと舗装の継ぎ目が境界であろうと推定。本来なら、ここから海に向かって進み、浜辺に境界点を探す予定であったが、早くもお疲れ気味のメンバーを気遣う篭嶋隊長の英断である。

その後、常盤町に向かって北上。県道30号線(湘南新道)脇の中華「幸楽苑」で遅い昼食。

ここからは、またバスで茅ヶ崎駅に出て、今度はJR相模線。

首都圏では数少なくなった単線路線である。以前の気動車に比べ、今は電化されドアの開閉ボタン以外は普通の電車。3つ目の寒川駅で下車。

整備された駅前で目立つのはJAの建物。寒川町営のコミュニティバスを待つが出発まで30分もある。道路向かい側の居酒屋の看板を気にしつ

つ地図を広げて目的地を探していると、同じくバス待ちのお兄さんが親切に最寄りの停留所を教えてくれた。

でも最後に「そこなら、ここから歩いて行っても大したことないよ。」早く言ってよ！であるが、バスが来たのでそのまま乗車。

バスは狭い道を結構なスピードで運転。クネクネと曲がるので、方向感覚がなくなってくる。同じ建物を2回見たような気がするが、何とか湘風園入口に到着。ここから小出川に沿って目的地の探査開始である。

彼岸花の枯れた畦道を進み、排水路が合流するあたりが目的地で、隊長の事前調査では昭和62年に関係者が標識を設置した、とのことである。

草むらの中、それらしきものを探すが見当たらない。池田会長がマンホールを発見。

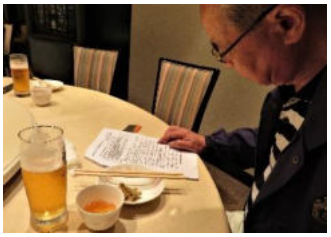
樹脂製の蓋には300の数字のみ。多分埋設管の口径であろうが、それらしきパイプは見当たらない。隊長判断で、このマンホールをもって境界点とした。

全員で勝利の記念撮影を終え、中原街道沿いのバス停に戻り、茅ヶ崎駅行の神奈中ﾊﾞｽに無事乗車。40分かけて駅に到着し、藤沢駅に戻ったのは午後5時42分。

隊長のお手配により、さいか屋8階の高級中国料理店「煌蘭」で次回日程の検討。

境界点8か所を3回に分けて確認するこの探査行、第2回目は10月23日とすることに決定し、7時間に及ぶ第1回目が終了。

皆様お疲れさまでした。次回の参加もお願いします。



～この後、一部の者は、飲み足らなかった分を取り戻すべく、夜の巷へと消えていったことは言うまでもない。

（取材:ゆめクラブ藤沢・情報通信部会）